

資料編

研究通信「一日一步」



今年度の校内研究がスタートしました

5月8日(月)の全体会を経て、今年度も校内研究が始動しました。4月中から、各学部主事の先生方を中心として、研究授業の計画を立て始める、単元シートの普段使いを呼び掛けるなど、具体的な取組が動き出していて、研究部一同背中を押していただいていることを実感しながら迎えた全体会となりました。本当にありがとうございます。



さて、今年度の校内研究主題は以下の通り。学習評価に焦点を当て、各教科等の資質・能力の育成を目指します。

「各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実」
—学習集団に応じた単元シートの活用をととして—

評価については、6月12日(月)の研修の日に全体で共通理解する機会を設定しています。また、単元シートについても、昨年度の取組の成果を共有しながら、今年度の実践につなげられる内容を考えています。よろしくお願いいたします。



イソップ寓話「北風と太陽」の話・・・

御存知の先生方が多いとは思いますが、あらすじを紹介します。



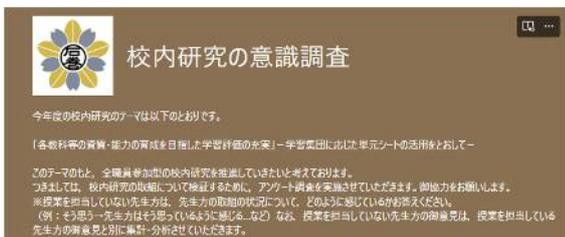
「ある時、北風と太陽が力比べをしようとする。そこで、『どちらが旅人の上着を脱がせることができるか』という勝負をする。まず、北風が力いっぱい吹いて上着を吹き飛ばそうとする。しかし、寒さを嫌がった旅人が上着をしっかりと押さえてしまい、北風は旅人の服を脱がせることができなかった。次に、太陽が燦々と照りつけた。すると、旅人は暑さに耐え切れず、今度は自分から上着を脱いでしまった。これで、勝負は太陽の勝ちとなった。」

・・・という話です。

相手の行動を変容させようとするとき、力づくで無理に「〇〇させる。」よりも、相手が自ら「〇〇しよう。」と考えて行動を起こすことができるよう手立てを講じて待つ、という教訓が得られる話だと思います。



意識調査への御協力をよろしくお願いいたします。



Microsoft Forms で御回答ください。
URL は校務システムにてお知らせします。

回答期間は5月17日(水)～5月31日(水)です。



先日はお忙しいところ、校内研究の意識調査へ御協力いただき、ありがとうございました。
結果をお知らせします。結果の概要は、下記 URL または QR コードより御覧ください。

https://forms.office.com/Pages/AnalysisPage.aspx?AnalyzerToken=vuLsaqJ4lwuoI0e5pK0Affk3L3tOh4yV&id=naqfO70Vi0ut45b2Z0QHN0sH2BGgWChHr5qwB_eKJkJUMVBMQUxSM0pJMThEU1Y5UUxEM0RNOU9ROC4u



設問6の自由記述については、こちらを御覧ください。

【小学部】

- 単元シートを活用した実践をできるだけ重ねていきたいと思う。
- 「話合いの時間の確保」という点で、3時30分～4時までの時間の使い方について、再度共通理解を図ること。
- 仲間の中で学びあえる場を提供していきたい。
- どの単元でも単元シートを活用することが校内研究を深める上で必要なことだと思う。
- ねらいから下りてきた個人の目標の立て方、その見立て方について、いろいろな方の話を聞いてみたい。
- 教材研究の時間がほしい。
- 時間の確保が課題。
- 評価を指導改善に生かすために、どのように単元シートを用いたらいいか。
- 昨年度から学年で単元シートを活用し、目標を共有している。また、授業後にメモ欄に児童の様子を記入して個別の指導計画の評価に生かすようにしている。
- 実践する先生方が、多忙感や負担感をもつことのないように研究を進めてほしい。
- どうしたら学習評価ができていると言える状態なのか、教員間で学習評価の考え方について共通理解した上で実践にすることが大切だと感じた。
- 教科を意識する大切さと教科を合わせた指導（遊びの指導、生単など）の良さ（例えば、思いっきり遊び尽くすなど）を生かすバランスを考えて授業づくりを進めていきたいと感じている。
- 実態が幅広いので、学習集団に応じた単元シートも様々なパターンが生まれると思います。他学年、他学部の単元シートから多くのことを学びたいと思う。
- 児童生徒に応じた指導をしていき次につなげていくことが必要だと思う。
- 校内研究について等、日々の学びについて話し合う時間がほしい。
- 小、中、高の様々な視点から児童・生徒の特性を考える時間も必要でないかと感じた。
- 現在進めていることを積み重ねていきたい。
- 個別の指導計画への反映のさせ方について。
- 単元シートを活用して授業を実践し、評価を行うこと。他学年の取り組みを共有すること。
- 児童生徒の実態把握。
- 学部間の連携。

【中学部】

- 昨年度は自分が実践した授業計画を、略案のみで作成していましたが、今年度から単元シートを使って作成している。単元シートのように一目で見て分かる授業計画を作成する習慣を付けることは必要であり大切なことであると思う。
- 「学習評価」とは、「学習評価を充実させる」とは、共通認識、共通理解をしてほしい。
- 評価を充実させたことで、生徒の変容や次の学習にどのように反映され、プラスになっているかが分かるかというのかなと思う。すみません、よく分からない。
- 授業改善や児童・生徒によりよい支援をするための授業後の反省の在り方。
- 公開モードのまま突っ走っている感じがします。もう少し肩の力を抜いて、身の丈に合った内容で取り組んでほしい。
- 単元の終わりの場面だけでなく、はじめの場面でも評価を行い、記録しておくことで単元内での変容や成長を感じることができるようになりたいと考えている。が、最後の評価の見通しがないと始めにどんな観点で記録を残したら良いのかも見えないので、単元の実践に入る前に評価の見通しを持っておくことはとても大切だと思います。頑張ってみてほしい。
- 単元シートの累積と共有。
- 他学部の授業を参観する態勢を整えること。評価した内容を共有できたら良い。
- 今の取組で深められていると思う。

【高等部】

- 共通理解をしたい。
- 校内研究の内容ではないが、自分自身が単元シートをうまく活用できていないと感じることがある。
- より簡潔な表現で示す方が、授業者もそれ以外も次の取り組みの参考になりやすいという意識を持ちたいと思う。形式的な表現や専門的なものにならざるを得ないところもあるとは思うが、シンプルに簡単にすることが継続しやすさを持つと思うので。
- 時間、ゆとりが必要だと思う。
- 教員間の共有ツールの充実。
- 職員間の意識の向上、日常に生かして簡易なもの、煩雑にならないもの
- 教材研究をする時間が必要だと感じている。
- 授業改善や児童・生徒により良い支援をするための授業後の反省の在り方。
- 特別支援教育 基本のキ。
- 授業実践した教材の蓄積と共有化。
- 授業研究を参観する際に数多くの先生が見られるよう日程調整を入念に行うべきであると思う。
- ゆとり、時間がほしい。
- 単元シートを日常の指導場面で気軽に使うためには、シンプルであることが望ましいと思う。
- 必要最低限の情報の記載で使えるような様式だと良い。
- 校内研究を深める上で必要だと感じることは共通理解。取り組むことを具体的に端的に分かりやすくすることが大切だと感じます。
- 授業の展開からたくさんの先生方と情報交換したい。
- 先生方が作成した授業計画、ワークシート、スライドなどを共有し、授業改善につなげられるといいのではないかと思います。
- 教員間の連携、単元シート作成等が大きな負担とならないようにすること。
- 他学部の研究授業を参観したい。他学部の様子が分からないと学習評価の仕方や視点がつかめないのでは、と考える。
- 昨年度まで使っていた単元シートは見づらく、使いづらい。普段使っている単元計画を利用するのはどうか。
- 特にありません。

- 同じ学部の特学年の各教科の略案や授業で使ったワークシートなどを参考にして教材研究をしたい。
- 集中して取り組めるまとまった時間や機会が設定してあると全体的に取り組みやすくなると思う。
- 研究にしっかり取り組める時間がほしい。
- 授業作りや評価では教員間での共有が大事だと思うが、取り組みやすい方法は何かないかを感じる。学部の雰囲気に合わせて行えればと思う。そのためには、教育課程の整理も必要か。
- 共有する時間を会議のように日時を設定されれば、今までよりもしっかりと共有できるのではないか。
- 指導案の書き方。
- 生徒の実態を把握し、過程を大事にしていきたい。
- 職員の立場を考えた方法。(事務の効率化)
- 目指す児童生徒像(じょうぶで元気な...)の実現と校内研究の関連をシンプルに示してもらえたら、自分自身の理解が深まるかもしれないと感じる。

【大学部】

- 単元シートを作成することが、指導・支援に生かされている実感があると継続して使っていけるかと思う。
- 校内研究が日常の授業にしみこんでいることがすばらしいと思う。その良さを大切にしながら、次年度以降、全校授業研にも取り組んでいけたらさらに学びが深まると思う。
- 単元シートを作成するための時間の確保が必要なのではないかと思う。



中学部 指導案検討会

7月20日(木)に行われた指導案検討会の様子をお伝えします。(指導案は7月20日の校務システムのメッセージをご覧ください。)

指導案について

授業者(伊藤先生、植松先生、後藤)から、単元や個別の目標、学習過程等について説明がありました。その後、皆さんからの質問やご意見をいただきました。以下に紹介します。

- ・単元のねらいにある「喜ばれる製品」とはどのような製品なのかを具体的に。例えば「形の良い製品を目指して取り組む。」など、評価ができるように。
- ・「喜ばれる」というところがポイントになるのでは。見本などを提示して生徒に分かりやすくするなどしたい。
- ・単元名は子供たちにとって何に向かって活動しているのかが分かりやすいものがよい。

現在、いただいたご意見を基に、授業者を中心に検討を重ねています。ご意見ありがとうございました。

個別の目標に迫るための話し合い

後半は3つのグループに分かれて、抽出生徒3人の個別の目標に迫るための手立てについて意見を出し合いました。各班で出された意見をご紹介します。(○は「いいね!」、●は疑問やアドバイス)

【Aグループ】(ISさんについて)

- 生徒の後方に座る支援は良いと思う。
- カードやタイマーの提示。指示が分かりやすい。
- 行動の意味を把握して、時に過剰に関わらないようにしていること。
- 手で方向を示す。
- 関わりを求めることに応じながら少ない支援で導いている。
- どこに片付けるか数字があって分かる。
- 達成感・・・称賛は?→○はなまるカード使える!(学級で称賛するときに使っているカード)。
- 後方から見守る→立ち上がりそうになったときどうするか?具体的に書くと良いのでは?
- 教室の自立課題に集中して取り組んでいた姿から、その要素を場設や課題設定に生かせないか。
- 以前、離席の多い生徒をお誕生席(後ろ壁)、カットテーブルにしたら環境的にだいぶ離席を減らすことができたことがあった。
- プットインをうまく取り入れる。
- “離席しない”より“集中できる”ための手立てを考えたい。
- 継続(目標)←→問題行動(手立て)
- できたとときのご褒美みたいなものがあるといいのでは。
- きちんと取り組んだことが分かるような方法(シール)。
- ことば→行動の支援→視覚化
- 安定する方法をみんなで共有する。



※Aグループでは、ISさんへの個別の支援の仕方について、具体的な提案が出されました。





中学部 指導案検討会

個別の目標に迫るための話し合い

前号の続きです。(○は「いいね!」、●は疑問やアドバイス)。

【Bグループ】(SAさんについて)

- パルプを適量提示するのは良い。終わりがみえないと、その後の活動に支障が出そう。
- パルプを適量提供するのは他の紙に注意もいかなくなるので良いと思った。
- 小さくちぎることができたら称賛する。
このことで、どうちぎったらいい製品になるのかが結びつくと思う。
- 見本を見ることで、ちぎる大きさを確認できるようにする。喜ばれる製品作りに必要なことだと思う。
- 実物の見本を提示するのは分かりやすく良いと思う。
- 青地に白の見本は見やすく認識しやすい。
- Y君と同じようにタイムタイマーを見るよう言葉掛けすると、より見通しが持てるのではないかと…。
- はさみを預けても大丈夫な人だと思うので、ちぎるよりもより見本に近い大きさに切れるのでは…?
はさみできることは本人は好きだと思う。
- ちぎりたい大きさの紙が入るだけの容器ではどうか。
- 手本を見せるだけでなく、一緒に手をとって手本のサイズにちぎると、よりサイズ感が理解できると思った。
- 一つの紙をちぎる回数を決める。2回ちぎり、小さくしたらまた2回…など。
- 5個くらいの箱を用意。終わりも見えるし、だんだん小さくちぎれると思う。サイズ別の段階ごとに容器を順に分けて、目標サイズまで繰り返させる。
- 見本に合わせてみるが同じ白ではなく、別な色で。合わせてみてそれよりはみ出ていたら×とか。視覚的に分かりやすくする。
- ちぎる紙にちぎって欲しい大きさを書いてその大きさにちぎらせる。
- 達成感をより味わうことができるように…「同学年のH.A君やS.H君と称賛し合う」とかでもいいような…頑張りを称賛し合う的な。
- 量が表示されているような容器だと、なお達成度が数値化されるのではないかと。
- 容器○個を目指してパルプをちぎろうね、と提示する。(今までの時間から毎回何個の容器をやっているか指針に)
- ラミネート剥がし班のように具体的にここまでという視覚的に分かりやすい目標を立てると、より達成感を得られるかと思う。
- パルプ→小さくちぎることが○?細かくちぎる意味。ミキサーに掛けたとき、あまり細かくちぎったパルプよりも、少々大きくてもそれがミキサーに掛けたときに和紙の味になることもありますよね。ちぎった紙の大きさを何種類かに分けてもよいのでは。紙の味を出す。
- ちぎるサイズが小さすぎると思う。紙の繊維が切れてからまないのではないかと。



製品の質を上げるための効果的な方法や生徒が達成感を得るための支援などについて話し合われました。





中学部 指導案検討会

個別の目標に迫るための話し合い

前号の続きです。(○は「いいね!」、●は疑問やアドバイス)。

【Cグループ】(KYさんについて)

- やることは分かっており、活動に見通しをもっている。報告、助言、称賛が本人に響いている。
- 具体的な褒め方ができる。
- 一枚作り終えるたびに、出来上がりを確認する。
- 本人の能力、意欲と作業の内容が合っている。
- 報告をさせる→本人を称賛。
- 高等部でも報告が大切なので素晴らしい。
- 仕上がり確認、称賛する。
- やること分かっているから落ち着いて活動できる。
- 製品の完成数を本人のモチベーションにつなげることができないか。
(雑にならずに)
- 数を数えるだけでなく、得意なイラスト等を作業に入れるすべを検討。



以上の他にも、KYさんの作業能力の高さや今後どのような製品に発展させていくことができるかなどについて話し合われました。



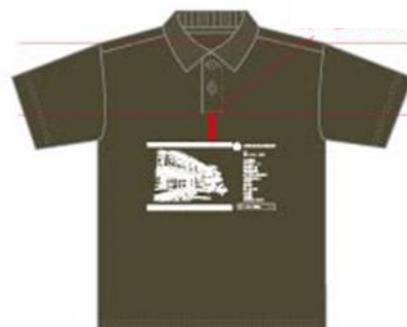
中学部 指導案検討会を受けて

7月31日(月)に授業者で再度集まり、検討会の内容を振り返りました。さらに充実した授業を展開できるよう、話し合いを重ねています。検討した内容については8月21日(月)の2回目の指導案検討会で詳しくお伝えする予定です。どうぞよろしくをお願いします。

お知らせ



お気付きの先生方もいらっしゃるかと思いますが、研究部では右のようなポロシャツを作りました。研修モードになるときに着ています。ポロシャツを着ている人を見かけたら、その日は研修の日です。どうぞよろしくお願いします。





実践!

中学部 研究授業

7月14日(金)



自立活動を中心とした教育課程の生徒4人を対象として、音楽の授業実践を行いました。

中学部全員が参加する音楽の授業の中で、対象生徒の取組の様子や教師の支援を観察するという形で実践しました。お忙しい中、大学部の先生方にも参観していただきました。

今回は、お寄せいただいた「Thank you シート(感想シート)」の御意見を紹介し、共有したいと思います。



○廊下から参加する生徒、同じ室内で先生の隣にいて参加する生徒、オンラインで参加する生徒など、一人一人が安心して参加できる状況設定がされていた。その上で、一緒に歌ったり、学級ごとに違った道具を使った振り付けの発表を見合ったり、VTRを鑑賞したりして、集団学習の良さを生かした、生徒達にとって楽しい授業展開だったと思う。学年発表の際に、音楽のスピードを変えていた学年があったのは、「なるほど」と思った。教師によるさりげない働き掛けによって、徐々に自発的に授業に参加することができた生徒もいて、授業後に満足そうな表情をしていたのが印象的だった。次回以降に向けてご検討いただきたいことは、発表後の感想の場面で、口頭発言ができる生徒ばかりではないと思うので、例えば3つくらいの表情カードなどから、その場で選択して目に見える形で相互評価をするという工夫も互いを意識して参加することにつながると思った。

○最後の鑑賞の場面を見ました。活動②「身体表現」の次の活動だった効果もあってか、画面から流れる映像や音に合わせて、自然に体を揺らし始める姿があちこちで見られたのが印象的だった。Sくん両手を叩き合わせたり、手の平を合わせて上下に動かしたり、音楽に自分から関わり、楽しそうに表現していた。これからの季節、日常生活の夏祭りなどの場面にこの経験を生かしていく姿が期待されるなあ、と思った。

○「身体表現」について、体育の身体表現と関連させながら考えた。音楽では、「音を聴いてどんな表現をしたいか」が大切なのではないかと考えた。対象生徒について、単元シートで明確になっているが、授業シートでは全体の流れのみだったので、どのように関連させて見たら良いか戸惑った。また、対象生徒の小さい表現にも着目できる発表グループを構成する、という手法もあったかな、と感じた。

○単元シートについて、育成を目指す資質・能力が多くても、教科で実践するとすっきりすると思った。個別の目標がかなり詳しく書かれていて、生徒理解の深さや、今回の教材をこのように学んでほしいという思いを感じた。そして、その詳しさが学習評価のしやすさにつながると感じた。Sくんが、車椅子を自分で動かしながら音楽を楽しんでいたのが印象に残った。

○ダンスを作るときに、生徒達が自由に踊っている様子を撮影し、好きな動きをピックアップして振り付けを構成したことで、「これは●●さんの動き。」という部分ができ、一人一人にスポットが当たったので、とても良かった。

○それぞれの医ケア生徒の好みや関心に合った支援をしていることを改めて学ぶことができた。また、3学年一緒に、中学部全体で楽しく活動できたと思う。

○同じ曲を使っても学年ごとに振り付けを考えると、お互いの発表時に生徒の反応があり、良かった。

○楽しい授業を展開してくれていることで、はじめから最後まで参加できる生徒がいるので、ありがたい。

○単元シートを使うことによって、それぞれの生徒にどのような働きかけ(手立て)をすれば良いか考えながら授業をすることができと思った。担当している生徒の良い動きや、良い表情の時に気付いた教師に手を上げてもらおうと、そのことをみんなで共有できると思った。(授業者)

研究授業の日程 (R5.8.4 現在)

8月31日(木):高2 美術

9月12日(火):高1 生活単元学習

13日(水):小1 遊びの指導

27日(水):小6、中工芸(指導主事訪問)

10月2日(月):小3 遊びの指導

11月8日(水):小2 生活単元学習

14日(火):中 木工

12月7日(木):小45 音楽



良いりんごを育てたい!?

ある県の研修動画に、「良いりんごを育てる。」という目標は評価しにくい、と紹介されていました。「良い」の定義が曖昧だからです。では、「大きなりんご」なら…?これでは、主観的です。たとえば、「直径10cm 以上のりんご」という目標なら…、評価できますね。同様に「甘いりんご」も主観的。「糖度14度以上のりんご」という目標なら、明確に評価できます。そして、目標が具体的になると、達成するために必要な近道と思われる手立てを考えて、実行することができるようになります。りんごの場合なら、肥料を増やそう、剪定の方法を見直そう、摘果の時期を工夫しよう、などでしょうか。

学習評価の改善の基本的な方向性



学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとするのが重要。

- ① **児童生徒の学習改善につながるもの**にしていくこと
- ② **教師の指導改善につながるもの**にしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、**必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと**

←これは、6/12の研修の日に御紹介した中央教育審議会の資料です。

先述のりんごの話と重ねてみると、しっかりと腑に落ちるのではないのでしょうか。指導と評価が一体となり、教員間での相談や検証を加えながら、支援・指導が継続されていくことになりますね。

夏休みが明けると、多くの研究授業が予定されています。単元シート個人の目標を立てるときが評価の始まり、という共通理解のもと共同研究をよろしく願います。



学習評価が充実するとは…? -其の1-

□個々の目標(評価規準)を具体的に設定できること。



《意識調査の結果から…》 ★意識調査の結果から、多くの先生方が不安を感じている内容を深掘りしていきます。

「学びに向かう力・人間性」の評価について

↑これは「主体的に学習に取り組む態度」と「人間性等」に分かれます。

国語 高等部I段階 ウ

「言葉が持つよさを認識するとともに、幅広く読書をし、 国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。」

「主体的に学習に取り組む態度」→評価規準

「人間性等」…個人内評価で見取る

「言葉が持つよさ」…言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること。

言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること。

言葉を通じて他者や社会と関わり、自他の存在について理解を深めること。 など

「幅広く読書」…自然科学、哲学、文化、物語など様々な分野の文章、詩、俳句などにふれること。

授業では…?

読書の幅が広がるように、生徒の興味・関心、読解力などの実態に合う文章を教材として提供し、読む機会を設定する。

言葉が持つよさを認識できるように、「これは〇〇ということかな。」「〇〇だからこうなったんだ。」などの考えを、つぶやいたりメモしたりしている様子を見取って評価する。「おもしろい。」「ふしぎだなあ。」などの感想を伝え合う時間を大切にす。他者の考え方にふれ、自分との共通点や差異に気付くことができるような展開を工夫する。

…など、いろいろな活動を通して、評価の仕掛けを用意できそうですね。

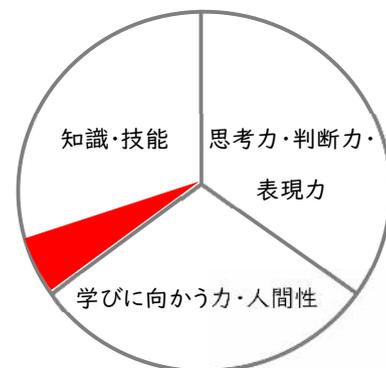


《意識調査の結果から・・・》 ★意識調査の結果から、多くの先生方が不安を感じている内容を深掘りしていきます。

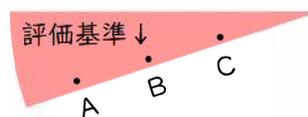
「のりじゅん」と「もとじゅん」について

各教科で育成を目指す資質・能力は3つに分けて示されています。

例えば、算数の中学部1段階 A「数と計算」の(ア)⑦「1000 までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。」という内容があります。算数で育成したい「知識・技能」の一部を扱うことになります。(右図赤い部分)この内容に合う評価基準は、単純に考えれば「1000 までの数を～分類して数えたりしている。」となるでしょう。これが、評価するときの指標となります。前号の「糖度14度のりんご」という指標を持った状態です。



↓ 赤い部分を拡大



では、どの程度達成できたら良いのでしょうか。これが評価基準(拡大図「・」)です。

りんごの例だと、「糖度15度以上ならA、糖度14度ならB、糖度13度以下ならC」と、予め基準を決めておいて、収穫したりんごの糖度を測って評価をしていきます。(実際のりんご栽培なら、おそらく糖度14で A でしょう・・・)特別支援学校では、アルファベットや数値を使った評価は行わず、文章表現で累積をしています。単元シートの個別の目標の欄には、評価基準に当たる内容、つまり「この児童生徒には、ここまで達成させたい。」という目標が明記されると良いと思います。または、具体的な手立てをはっきりさせることで間接的に基準が見えることもありますね。

では、どの程度達成できたら良いのでしょうか。これが評価基準(拡大図「・」)です。りんごの例だと、「糖度15度以上ならA、糖度14度ならB、糖度13度以下ならC」と、予め基準を決めておいて、収穫したりんごの糖度を測って評価をしていきます。(実際のりんご栽培なら、おそらく糖度14で A でしょう・・・)特別支援学校では、アルファベットや数値を使った評価は行わず、文章表現で累積をしています。単元シートの個別の目標の欄には、評価基準に当たる内容、つまり「この児童生徒には、ここまで達成させたい。」という目標が明記されると良いと思います。または、具体的な手立てをはっきりさせることで間接的に基準が見えることもありますね。



8月21日(月)10:30～第2回目の指導主事訪問 事前検討会があります。

場所は、第1回と同じく、小学部は視聴覚室、中学部は中プレイルームです。

グループに分かれて話し合うときには、前回と同じ構成でお願いします。各学部近くにある研究部コーナーの掲示物等で御確認ください。

7月20日(木)に行われた第1回 事前検討会(小学部)の様子をご紹介します。

小学部では、6年生対象の「ルールのある遊びをしようI」の単元について検討しました。高等部の先生方と一緒に、色々な角度から教具や授業の展開について話し合われました。前日の豪雨の中、材料を調達して教具を手作りしてくれたおかげで、実際の教具見本を操作しながら、アイデアが続々と生まれていました。先生方が生き生きと試行錯誤している様子がとても印象的でした。翌日(21日)には、話し合いの振り返りをしながら、指導案に生かす方策を協議されていました。



各グループでの話し合いの結果

指導案 改善・パワーアップ アイデア	疑問点
<p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p> <p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p> <p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p> <p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p>	<p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p> <p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p> <p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p> <p>「のり」を使う 算数で教える 2つの方法 ①のりを使う ②のりを使う</p>



小学部 指導主事訪問

先日行われた指導主事訪問の授業では、子供たちが真剣に魚釣り遊びに取り組む姿が随所に見られました。本号では、主に事後検討会の意見の一部を掲載しました。授業作りから関わってくださった先生方、本当にお疲れ様でした。そして6年生の先生方、素敵な授業をありがとうございました。



教材がとても魅力的で、「釣りたい!」という意欲を高めていた。たくさんの種類の魚があることで、釣りたい魚を選ぶことができていた。



魚を釣る場面と説明を聞く場面を分けたことで子供たちは気持ちの切り替えができていた。また、見通しを持って何をするか理解できていた。



子供を遊びに誘う言葉掛けについて、教師間の連携が取れていた。子供が教師のサポートを頼りにしている場面も見られた。



途中で忘れてしまっても、教師の言葉掛けで思い出し、ルールを守って遊ぶことができていた。



釣り場の周りに岩に見立てた物を置くなど、安全面に配慮しながら、遊びを制限する必要がないような場の設定が大切だと思う。



活動の最後に大きな網で一緒に魚を捕るなど、友達と協力する場面をもう少し設定できるかもしれない。



感想発表の中に釣りの成果の紹介を入れ込んだり、どれが一番気に入っているかを選んだりすることで、より評価が充実したかもしれない。



中学部研究授業 作業学習「作業製品を作ろう①～紙すきはがきを作ろう～」

9月27日の指導主事訪問で行った授業の様子と事後検討会でいただいた意見や感想をお伝えします。

授業

「紙すきはがきを作ろう」の41時間目の授業で、牛乳パックのラミネートを剥がす班、紙ちぎり班、ミキサー班、紙すき班に分かれて、紙すきの基本的な加工の手順を身に付ける学習でした。



事後検討会

抽出生徒を担当した伊藤先生、瀬川先生、植松先生から自評をいただき、抽出生徒ごとの3グループに分かれてワークショップ形式で事後検討会を行いました。たくさんの意見が交換されましたので、その一部をご紹介します。

抽出生徒 **A** の育成を目指す資質・能力や単元の目標を踏まえた本時の目標について

目標	内容
	○着席して教師の連絡事項を聞くことができる。
	○継続して作業に取り組むことができる。
	○作業の「終わり」のことばを聞いて、自分の使った道具をもとの場所へ片付けることができる。

○良かったところ ●疑問、アドバイス ・感想

<目標の明確化>

- 「着席していること」「聞いていること」のどちらが目標なのか。「聞いていること」はどう評価する？

<心理的安定・実態に応じた支援>

- 生徒の後方に座って支援していたのが良かった。(多数)
- 後方からの支援はどうしても生徒の視線が分かりにくい。→支援の位置を変更する 二人で支援するなど

<視覚的支援>

- カードを見せる支援が有効だった。

<視覚的(示範)>

- 実物提示+見通しの持てる言葉掛けがとても効果的だった。
- タイムタイマーで見通しを持たせるなら近くに提示したい。
- 作業量の設定 本人にとって少し頑張れば完成する作業量を提示する方法も有効だと思う。

<達成感>

- ・できたときに本人の分かる「^{マル}○」の伝え方で称賛しているのが良い。
- ・本人が自信を持って一人でできる活動場面が設定されると良い。主体的に取り組む力も育みたい。

<指導案>

- ・合わせた指導「職業・家庭」と何を合わせているのか明らかにすると◎

次号に続きます。





事後検討会

抽出生徒 **B** の育成を目指す資質・能力や単元の目標を踏まえた本時の目標について

- | | |
|--------|---|
| 目
標 | <ul style="list-style-type: none"> ○より小さく紙をちぎる活動に作業時間内集中して取り組むことができる。 ○提示された手本を見ながら、見通しを持って取り組むことができる。 ○作業や実習等で達成感を得ようとする。 |
|--------|---|

<集中できる環境>

- 班の配置、テーブル内での位置など、落ち着いて取り組める設定。
- 自分が使う道具を自分で持ってくること→これから何をするのか見通しが持てる。

<教材・教具の工夫>

- 段階的に小さくちぎるための容器がとても分かりやすかった。(多数)

<視覚的な効果>

- 自分でやった作業量が分かり、達成感を得ることができた。

<その他>

- ・TIの指示の出し方が分かりやすかった。黒板の掲示の仕方が工夫されていた。
- ・多くの先生が見に来ていながらも落ち着いて作業していて素晴らしいと感じた。
- ・事前検討会で話された内容を生かして授業作りがされていたのが良かった。



抽出生徒 **C** の育成を目指す資質・能力や単元の目標を踏まえた本時の目標について

- | | |
|--------|---|
| 目
標 | <ul style="list-style-type: none"> ○紙すきの工程通りに作業を行い、はがきを一枚一枚丁寧に作成することができる。 ○作業時間を確認しながら見通しを持って作業を行うことができる。 ○すいた紙(はがき)の枚数を数え、本時の作成枚数を確認することができる。 |
|--------|---|

<作業室内の環境整備>

- 道具の配置や動線で作業がスムーズに進んでいて良かった。
- 作業室内が整理されており、余計な刺激が少なく集中しやすい環境。
- すいた紙を窓に貼って乾燥させること(事前検討会より)を実践したことで生徒に好影響があった。

▷支援の良さ!本人の意欲と理解力 さらに向上を目指す!!

- 「できました。」の報告がしっかりできていた。片付けも自分の仕事として捉えていた。

- タイムタイマーと時計の表示を関連付けて理解できるようにしたい。

▷次なるステップに向けて時間の意識!

- 自分の言葉で反省を言えていた。

- すいた紙の枚数を数え、満足感を得られた。

▷これまでの積み重ねにより、目標は達成された。今後は製品の善し悪しの判断ができる力を身に付ける。

▷ステップUP!



この他にもたくさんの御意見をいただいています。

それぞれのグループでまとめていただいた意見を参考にして、後期の作業学習をより充実させていきたいと思えます。

たくさんの貴重な御意見をありがとうございました。





10月11日(水)
全校研究授業(小)



小学部の訪問学級の指導を動画で視聴させていただきました。単元シートだけでなく、指導されている遠藤仁子先生からの説明もあり、児童の実態や教材の工夫などがとても分かりやすく、私達の学びを深める機会となりました。

今回は、先生方の感想をご紹介しながら、学習評価の方法や機会についても深めていきたいと思ひます。

【Thank You シートから】

<小学部の先生より>

○Rさんの心の動きを丁寧に受け止めようとする仁子先生の意志が教材、教材提示の工夫、言葉掛け、歌い掛け等、全てにしっかりと貫かれていること、その継続が「笑顔で顔を向ける」ような関わりの広がりにつながっていると感じました。3本のビデオと単元シートは、学校の大きな財産・宝ですね。毎年、6月あたりに全校で見たいです。

<高等部の先生より>

○ミニプラネタリウムに注意を向け続けたり、繰り返し笑顔になるなど準備した教材の工夫と先生の関わりがとてもすばらしいと思ひました。訪問指導という制限が多い中、子どもの実態に合った教材を作ることはとても大変だと思ひますが、先生の「段階に応じて」と言っていたので、自分も教材の工夫を生徒に合わせてやっていきたいと思ひました。

➤仁子先生の話にもあったように、「笑顔で顔を向ける」や「注視する」、「手を伸ばす」など目標達成の児童の姿を具体的にイメージしていることで、手立てが工夫され、学習評価につながっていくのですね。

<中学部の先生より>

○訪問指導の様子を見る機会がほぼないところ、今回見せていただき大変勉強になりました。訪問という限られた環境の中で、その子のどの部分に迫りたいのか考えて、そのために教材・教具の工夫、そして何よりも一回一回の訪問指導の機会を大切に「この先生とだったら」という信頼関係を築くこと、御家族の状況を考えた授業内容などなどたくさん勉強になりました。ありがとうございました。

<大学部の先生より>

○先生との関係性を作る、好きなものを1つずつ増やすなど、どの子どもにとっても大切なことを意識された上での授業だったとのこと。心の通い合い、そしてRさんの実態や環境の一つ一つを大切に行われていること、大変学びになりました。素敵な取り組みを見せていただきありがとうございました。

➤訪問指導という限られた環境を考慮して作成されている、単元シートや授業はとても貴重です。単元を通して、育成を目指す児童の姿を段階的に明確にしたことで、それに続く手立てが少しずつ変化しています。それに伴って、学習評価も次時の指導に生かす評価になっていると思ひます。

～その他にもたくさんの感想が寄せられています!一部抜粋したものをご紹介します!～

- ・本児の興味・関心にはまった教材の準備や活用により、本児の積極的で意欲的な表出を引き出せていたと思います。学習の積み重ねができる児童なので、パターン化した取組みや繰り返しの学習で、意欲が高まっているのがすごいです。
- ・自分から表現するのを待ち、それを意味付け、〇〇さんが伝わった喜びを感じているところ、教師と楽しさを共有して一緒に心を動かしているところに感動しました。
- ・重複部があった頃、月1回ビデオ検討会をしていたのを思い出しながら、見させていただきました。一人で授業するご苦勞、たくさんたくさんあると思います。じっくり関わる、じっくり見る時間、大事ですよ。
- ・興味を引く教材・導入はどの学部、どの生徒にも必要で、とても勉強になりました。
- ・教材が、目と耳から同時に入ってきたことで、意識が学習に向かったのだと思います。
- ・光の点滅が、時間や物の変化、また点くかもという未来(次)への思考につながっているな、と思いました。その思考が、「自分から関わる」や「もう一度したい」「相手の様子はどうかな」というところにつながっていると思いました。
- ・評価基準をしっかり設定することは、やはり大切ですよ。
- ・情報や刺激を児童に合わせてコントロールしているのだと感じました。
- ・授業シート・単元シートから、授業内容や教具まで考えることができるものと再確認しました。
- ・資質・能力は全て小3段階で設定されていました。中・高は小学部段階の子がいても・・・と思いますが、小の場合は学年相応でないダメなのかどうか、疑問に思いました。
➤授業の対象児童が小学5年生なので、小3段階の設定は教育課程で決まっているところでした。教育課程では、小学1・2年生が1段階、小学3・4年生が2段階、小学5・6年生が3段階となっています。今回の授業では、実態に応じて個の目標が1段階で設定されています。



